

パンクラス オフィシャル ルール

～ 2014年改訂版（2014年4月20日より実施）～



キング・オブ・パンクラス・コミッション

総 則

ハイブリッド・レスリング

本ルールの下で行われるハイブリッド・レスリングは、競技者がパンチ、キック、肘打ち、投げ、関節技、絞め技を有効に使い、技術、体力、精神力、知力、運を競い合うプロスポーツである。よって、競技者はルールを厳守し、試合はスポーツマン精神に則って行わなければならない。

第 1 章	体重階級
第 2 章	試合場
第 3 章	競技用具等
第 4 章	試 合
第 5 章	反 則
第 6 章	セコンド
第 7 章	審 判
第 8 章	オフィシャルドクター
第 9 章	タイムキーパー
第 10 章	アナウンサー
第 11 章	キング・オブ・パンクラス・コミッション
第 12 章	提 訴
附 則	

第 1 章 体重階級

第 1 条 体重階級制

(1) 試合は次の 13 階級において行われる。

- ①ヘビー級…………… 120.2kg 以下 93.0kg 以上
- ②ライトヘビー級… 93.0kg 以下 83.9kg 以上
- ③ミドル級…………… 83.9kg 以下 77.1kg 以上
- ④ウェルター級…… 77.1kg 以下 70.3kg 以上
- ⑤ライト級…………… 70.3kg 以下 65.8kg 以上
- ⑥フェザー級………… 65.8kg 以下 61.2kg 以上
- ⑦バンタム級………… 61.2kg 以下 56.7kg 以上
- ⑧スーパーフライ級……56.7 kg 以下 54.4kg 以上
- ⑨フライ級…………… 54.4kg 以下 52.2kg 以上
- ⑩ライトフライ級…… 52.2kg 以下 49.9kg 以上
- ⑪スーパーストローク級…… 49.9kg 以下 47.6kg 以上
- ⑫ストローク級…… 47.6kg 以下 45.4kg 以上
- ⑬ミニマム級………… 45.4kg 以下

(2) 前項に属さない試合は、無差別級とする。

第 2 条 計 量

(1) 競技者は、審判部の立ち会いのもとコミッションが指定する日時に行われる公式計量に合格しなければならない。なお、公式計量に合格できなかった場合の再計量は公式計量の指定時間から 1 時間以内とする。再計量にも合格できなかった場合の最終計量は公式計量の指定時間から 4 時間以内とする（ただし、公式計量が試合当日に行われる場合の最終計量は公式計量の指定時間から 2 時間以内とする）。

(2) 男子競技者は上半身裸、下半身は必要最低限の衣類で、女子競技者は上下とも軽装で計量を受けなければならない。

(3) 競技者が公式計量に合格せず、再計量および最終計量にも合格できなかった場合、原則として不戦敗となり処罰の対象となる。なお、故意に計量を無視した競技者は、失格、出場停止、無報酬、除名の対象となる。また、再計量および最終計量において前計量結果より正規の体重から逸脱するような結果を出すなど、試合出場に対して誠意が見られないと判断されるような態度をとった場合も同様の処置をとる。

(4) 一方の競技者が計量に合格できなかった場合でも、計量に合格した対戦相手が試合の実施を申し出た場合は、試合は行われなければならない。ただし、試合が行われても、計量に合格できなかった競技者の勝利は記録されず、次の各号のとおり裁定される。

- ①計量に合格した競技者が勝った場合は、その結果を公式記録とする。
- ②計量に合格した競技者が負けるか、引き分けた場合、記録はノーコンテストとする。

第2章 試合場

第3条 試合は、ケージ内またはリング内において行われる。

- (1) ケージは6等辺以上のサークル状の形状であり、対角線は7メートル以上の適当な広さのものをを用いる。
- (2) リングは一辺の長さが5メートル以上の正方形で、3本以上のロープで囲まれていなければならない。
- (3) 試合場のフロアは、2センチ以上のウレタン製の素材でパディングし、最表面をキャンバスで覆わなければならない。パディングの素材は全体に均質なものをを用い、固さにばらつきがあるものや凸凹ができるものをを用いてはならない。
- (4) 試合場内のフロアには、いかなる障害物も置いてはならない。
- (5) パンクラス公式戦のナンバーシリーズにおいては、対角線が約9メートル、10角形のケージ（デカゴン）を用いる。
- (6) 上記の規格以外の試合場でもコミッションが承認する場合は公式試合場とする。

第3章 競技用具等

第4条 競技者は、(1)に定める競技用具を必ず着用しなければならない。また(2)に定める競技用具を任意に着用できる。これらすべての競技用具は、試合前の指定の時刻に行われる審判員のチェックを受けなければならない。

(1) 必ず着用しなければならない競技用具

①オープンフィンガーグローブ

②マウスピース

③ファウルカップ（男子）

ファウルカップはスパッツの下に着用しなければならない。

試合用ファウルカップは次のi)～iii)の要件を満たすものでなければならない。

i) 金属製、カーボンファイバー製の硬質なもの（プラスチック製などは認められない）。

ii) カップ部に付属する紐を結んで固定できるもの（いわゆるムエタイ式カップに限る。サポータータイプやパンツ型のはくタイプなどは認められない）。

iii) その他、審判員により競技上支障がないと判断されたもの

④スパッツ（男子）

試合用のスパッツは、次のi)～iv)の要件を満たすものでなければならない。

i) 金属・プラスチックの部品が使用されていないもの

ii) 着用時のずれを防ぐための紐などがウェスト裏部分に装着されているもの（紐が表側にあるものは認められない。）

iii) ポケットまたはそれに類するものが表側に付いていないもの

iv) その他、審判員により競技上支障がないと判断されたもの

⑤アブドメンガード（女子）

⑥女子選手用コスチューム（ラッシュガード、セパレート、ワンピース等）（女子）

(2) 任意で着用できる競技用具

①ショーツ

競技者は、スパッツの上に、**MMA** ショーツ、バーリトゥードショーツ、キックボクシングショーツ等を着用することができる。ただし、次の i) ～vii) の要件を満たしていなければならない。

- i) 必ずスパッツの上に着用しなければならない（ショーツのみの着用は認められない）。
- ii) ショーツの丈は膝上までであり、膝頭にかからない長さでなければならない。ただし、下に着用するスパッツより短い丈であってはならない。
- iii) スリットがあるショーツは、スリットが補強された縫製で、かつ切り込みの長さがショーツの丈の 2 分の 1 以下でなければならない。
- iv) 金属・プラスチックの部品が使用されていないもの
- v) 着用時のずれを防ぐための紐などがウェスト裏部分に装着されているもの（紐が表側にあるものは認められない。）
- vi) ポケットまたはそれに類するものが表側に付いていないもの
- vii) その他、審判員により競技上支障がないと判断されたもの

②バンテージおよびテーピング

競技者はバンテージ、テーピングを使用する場合、内部に芯、コリ、その他の異物を巻き込んで서는ならない。また拳に装着した状態で拳骨の形が確認できない厚さに巻いてはならない。

③サポーター

競技者は、金属・プラスチック・硬質ゴム等の部品が使用されておらず、審判員が競技に支障がないと認めるサポーター類を着用することができる（なお、女子競技者は、弾性のある補強材（硬質ゴム等）が側部に用いられている膝サポーターを用いることができる）。

④チェストガードまたは胸部のパッド（女子）

(3) (1)(2)で指定された競技用具以外の着用、または規格外の競技用具の使用は認められない。

(4) 競技者は、審判員によって顔面部に塗布されるワセリン以外に、いかなる部位にもワセリン、油脂類、整髪料、滑り止め等一切の薬品、塗布物等を使用してはならない。ただし、女子競技者の化粧は、対戦する競技者に不快感を与えず、競技にも支障を来さない程度において認められる。

(5) 競技者は試合前とラウンド間のインターバルに審判員から顔面に適量のワセリンを塗布されてから試合に臨まなければならない。

(6) 競技者は、ファールカップ以外に、硬質のものを使用してはならない。いかなる宝飾類、ピアス等も身につけてはならない。

(7) 男子競技者の上半身は裸とする。競技中に道着やシャツの着用は認められない。

（破損等の場合の処置）

第 5 条 審判員は、競技者の競技用具や服装に関して次のように処置する。

(1) 競技者の競技用具や服装が常態でなくなった場合、審判員がなるべく手早く処理するために一時試合を中断する場合がある。

(2) 競技用具が故意、偶然にかかわらず試合に支障を来すような破損をした場合、審判員は試合を止め、速やかに最善の処置を取る。ただし、競技者自身の責任により試合用コスチューム、

マウスピース、ファウルカップが破損し、試合続行が不可能になった場合は失格とする場合もある。

【注記】本条第2項の場合に備えて、試合用コスチューム、マウスピース、ファウルカップは予備を用意することが望ましい。

第4章 試 合

(試合時間)

第6条 公式戦の試合時間は、3分3ラウンドと5分3ラウンドの2種類とし、インターバルは1分とする。タイトルマッチは5分3ラウンドで行われる。ただし、特別試合はこの限りではない。

第7条 攻防ポジションの定義

(1) スタートポジション

試合開始時やメインレフェリーが「ブレイク」をコールした後などのポジション。

両方の競技者は約1.5m以上離れてスタンディングによるファイティングポーズをとり、メインレフェリーの声と合図で試合を開始・再開させる。

(2) スタンドポジション

競技者の足部(足裏および足首より下の部分)のみがフロアに着いて、立っている状態。

(3) グ라운드ポジション

競技者の足部(足裏および足首より下の部分)以外のからだの部位がマットに着いている状態。

(試合の勝敗)

第8条 試合の勝敗は、ノックアウト(KO)、タップアウト(TO)、テクニカル・ノックアウト(TKO)、判定(デシジョン)、失格により決定する。

第9条 ノックアウト(KO)

競技者が対戦相手の攻撃により戦闘不能、または意識を失っていると審判員が判断した場合。

第10条 タップアウト(TO:ギブアップ)

(1) 競技者が、声でギブアップの意思表示を示した場合(バーバル・タップアウト)。

(2) 競技者が、手で相手かマットを2回以上叩き、ギブアップの意思表示をした場合(フィジカル・タップアウト)。

(3) 競技者が審判員にギブアップの意思表示と判断される行動をとった場合。

第11条 テクニカル・ノックアウト(TKO)

(1) 審判員が試合続行不可能と判断した場合。(一方の競技者が相手の正当な攻撃により著しく劣勢になった場合や、自らの責任により負傷した場合等:レフェリーストップ)

(2) ドクターが専門的見地から試合続行不可能と判断した場合。(一方の競技者が相手の正当な攻撃により裂傷等を負った場合等:ドクターストップ)

(3) セCONDがタオルを投入した場合。

第12条 判定

(1) 試合の決着が時間内にできなかった場合、所定の審判員 3 名の採点により勝敗を決する。各審判員は各ラウンドの優劣を採点し、合計点により 3 名のうち 2 名以上が優勢と判定した競技者を判定勝ちとする。

なお、アクシデント等により試合続行不可能となった場合、次の 2 号のとおりとする。

- ① 1 ラウンド終了時点で試合が成立するものとし、その時点で行なわれているところまでを判定する。2 ラウンド目、3 ラウンド目が開始されている場合も終了時点までを判定する。
- ② アクシデントおよび反則により裂傷があった後に試合が続行され、その裂傷が正当な加撃により悪化して試合続行不可能となったときは、その時点をもって前号を適用する。

(2) 判定基準

10 ポイント・マスト・システムが採点の標準システムである。10 ポイント・マスト・システムの下では、そのラウンドの勝者に 10 点が与えられ、敗者には 9 点あるいはそれ以下の点数が与えられる（まれに 10-10 となるイーブンのラウンドを除く）。

① 判定においては、効果的な打撃、効果的なグラップリング、試合のコントロール、効果的な積極性、およびディフェンスなどの技術を評価する。

② 評価は、上の①に表示された順（i. 効果的な打撃&効果的なグラップリング、ii. 試合のコントロール、iii. 効果的な積極性、iv. ディフェンス）に重みを与えてなされる。

③ 効果的な打撃は、ダメージおよび正当な打撃のクリーンヒットによって判断される。

④ 効果的なグラップリングは、サブミッション、正当なテイクダウンおよびリバーサル成功等を考慮して判断される（例えば、スタンドポジションからマウントポジションへいたるテイクダウン、マウントポジションを奪うパスガード、ボトムポジションの競技者が積極的に攻撃的なガードを駆使する場合などが考慮される）。

⑤ 試合のコントロールは、どちらの競技者が試合のペース、場所、ポジションを支配していたかによって判断される（例えば、テイクダウン時にスタンドポジションを維持した競技者がグラップラーの技の試みに反撃したり、寝技に移行するために打撃やテイクダウンをすること、サブミッションを仕掛けること、マウントをとるためのパスガード、あるいは打撃の機会を作り出すことなどである）。

⑥ 効果的な積極性は、前に出て、正当な打撃を当てることなどを意味する。

⑦ 効果的なディフェンスは、攻撃に対してカウンターで応じつつ、打撃、テイクダウン、リバーサルを防ぐことを意味する。

⑧ 次の採点基準が各ラウンドの判定時に用いられなければならない。

i) 10-10：両方の競技者が互角に戦っているように見え、どちらの競技者もラウンド中に明らかな優位性を示していないとき。

ii) 10-9：一方の競技者が、効果的な打撃・グラップリングあるいは他の技術をより発揮して、僅差で勝利したとき。

iii) 10-8：一方の競技者が、打撃やグラップリングによって圧倒的（overwhelmingly）に試合を支配したとき。

iv) 10-7：一方の競技者が、打撃やグラップリングによって完全（totally）に試合を支配したとき。

⑨ 判定においては、攻防ポジションの時間の長さを次のように認識して、攻防の優劣を評価しなければならない。

i) 競技者がラウンドの大半の時間をグラウンドポジションで費やした場合

- a. 効果的なグラップリングが最初に重視され
 - b. 効果的な打撃は次に評価される
 - ii) 競技者がラウンドの大半の時間をスタンドポジションで費やした場合
 - a. 効果的な打撃が最初に重視され
 - b. 効果的なグラップリングは次に評価される。
 - iii) スタンドポジションとグラウンドポジションの長さが比較的同等でラウンドが終わった場合は、打撃とグラップリングは同程度に重視される。
- (3) トーナメント、決定戦の試合の判定は全て必ず勝者を決めるマスト判定とする。

第13条 引き分け

- (1) 時間内に勝敗がつかず、3名の審判員のうち2名以上が同一の競技者を優勢と判定しなかった場合。
- (2) 両方の競技者がほぼ同時にノックアウトされたとメインレフェリーが判断した場合。

第14条 反則による失格（反則負け）

競技者が第5章に定める反則行為を犯し、審判員の裁量により、失格と判断された場合。

第15条 ノーコンテスト

- (1) 第2条(4)②に定める場合
- (2) 審判員またはコミッションの判断、もしくは両者の協議により、試合不成立と判断された場合。

第16条 試合結果の保留

- (1) 試合の裁定をその場で決するのに適さない事態が発生した場合、審判員は試合結果を保留し、コミッションの審議に預けることができる。
- (2) 試合時において、裁定を決するための前提となる事実が明らかにならない場合、審判員は、仮に裁定を下すことができる。仮に下された裁定については、後刻事実を確認したうえで、2週間以内に正式な裁定を下さなければならない。

第5章 反 則

第17条 本条に定める行為は反則であり、これらを犯した場合、審判員の裁量により、相応のペナルティが課される。

- (1) 頭突き
- (2) 目潰し
- (3) 噛み付く
- (4) 相手に唾を吐く
- (5) 髪を引っ張る
- (6) フィッシュフッキング
- (7) 股間へのあらゆる攻撃

- (8) 相手の体の開口部や傷口、裂傷部に指を入れる
- (9) 小さな関節（手足の指）への攻撃
- (10) 肘の先端を下に打ち落とす行為（肘を縦に振り下ろす打撃攻撃）
- (11) 脊椎や後頭部への打撃攻撃
- (12) 踵を使つての腎臓への蹴り
- (13) 喉へのあらゆる打撃、気管を掴む行為
- (14) 皮膚を掴む、つまむ、ひねる
- (15) 鎖骨を掴む
- (16) グラウンドポジションの相手の頭部への蹴り
- (17) グラウンドポジションの相手の頭部への膝打撃
- (18) グラウンドポジションの相手への踏みつけ
- (19) フェンスや試合場を構成する部位を掴む
- (20) 相手のコスチュームやグローブを掴む
- (21) 試合場内で口汚い言葉を吐く
- (22) 相手の負傷の原因となるようなあらゆる非スポーツマン的行為
- (23) ブレイク中の相手への攻撃
- (24) レフェリーのチェックを受けている最中の相手への攻撃
- (25) ラウンド終了の合図が鳴らされたあとでの相手への攻撃
- (26) 相手との接触を避けるあらゆる消極的な姿勢（意図的または継続してマウスピースを落としたり、怪我のふりをするなど）
- (27) 試合場外に相手を投げる
- (28) 審判員の指示を著しく無視する
- (29) 相手の頭や首をキャンバスに突き刺す（いわゆるスパイクング）
- (30) 審判員から塗布されるワセリン以外の塗布物を塗布する行為
- (31) 試合前に審判員によるチェックを受けていないテーピングや競技用具の着用
- (32) 審判員に対する虚偽のアピール、言動
- (33) 試合用コスチューム、マウスピース、ファウルカップ等の競技用具を破損し、試合続行を不可能にする行為

第18条 試合前・後に行われた反則の処置

- (1) 試合開始前に反則行為が行われた場合、反則に対する処置により減点された状態で試合開始される場合や反則負けとなる場合がある。
- (2) 試合終了後に反則が行われた場合、また試合前・中に行なわれた反則が試合後に判明した場合、反則の内容により試合結果が変更される場合がある。

第19条 塗布物等の処置

- (1) 競技者が試合前に審判員によるチェックを受けていないテーピングや競技用具を着用して試合場に入場した場合、または第4条(4)にあるワセリン等の禁止されている薬品や塗布物等を使用した場合は、その競技者に反則のカードが提示され減点された状態で試合開始となる。
- (2) 審判員は塗布物を確認した場合、洗い流す、拭き取るなど、塗布物を除去する処置を施さなければならない。塗布物を使用していると断定できない場合も審判員の判断によって同様の処置をとることができる。

第20条 意図的に反則を行ったと認められた場合、出場停止および罰金を科す。出場停止期間および罰金の額はその度合いによりコミッションが協議の上決定する。

第6章 セCOND

第21条 セCOND

- (1) セCONDは、各コーナー2名以内とし、試合中、自軍のセCONDエリアから外に出てはならず、観客の邪魔にならないよう配慮しなければならない。
- (2) セCONDは、試合中、競技者に言葉による助言を与えることができるが、競技者に直接接触する、マットを叩く、フェンスやリングロープを掴む、触るなどの動作をしてはならない。
- (3) セCONDは、インターバル中、競技者に水のみ与えることができる。ただし、リングを過度に濡らすなど試合進行を妨げてはならない。
- (4) セCONDは、インターバル中、1名のみ試合場内に入ることができる。
- (5) セCONDは、インターバル中、競技者の競技用具の細工や身体へのオイル塗布などの行為を行うと退場となり、競技者が反則負けとなる場合がある。
- (6) セCONDによる各コーナーの反則は1回目で注意、2回目で退場となる。また、競技者に反則を提示する場合もある。
- (7) セCONDは、試合中リングやリングエプロン等、試合場にいかなるものも置いてはならない。
- (8) セCONDは相手選手および審判員への罵倒、侮辱、暴力行為を行ってはならない。

第7章 審判

第22条 審判員

- (1) 審判員は、2年以上の実験的経験を持つか、またはこれと同等以上とコミッションに認められた者で、パンクラスオフィシャルルールとその適用に精通し、あらゆる関係方面から中立公正な立場でなければならない。
- (2) 審判部長は、コミッショナー並びにコミッションから権限を委任された者として、ルールの適用や試合結果等について、裁定、指揮等を行うことができる。
- (3) 試合における審判員は、次の①～③のいずれかにより構成される。
 - ①3名制：メインレフェリー1名、サブレフェリー2名（全員が採点する）
 - ②4名制：メインレフェリー1名、サブレフェリー2名、ジャッジ1名（サブレフェリーとジャッジが採点する）
 - ③6名制：メインレフェリー1名、サブレフェリー2名、ジャッジ3名（ジャッジが採点する）
- (4) メインレフェリーは試合場内で試合を管理し、サブレフェリーは試合場外、ジャッジはジャッジ席でそれぞれメインレフェリーを補佐する。
- (5) 試合を担当しない審判員は、審判部長および試合を担当する審判員の求めに応じて、助言することができる。
- (6) メインレフェリーが事故に遭遇した場合、試合を中断し、別の審判員が試合場に上がってから試合を続行する。

- (7) サブレフェリーおよびジャッジが事故に遭遇した場合、試合を中断し、その後の試合進行に支障を来さないよう審判員を配置してから試合を続行する。
- (8) 審判員が、ルール適用を誤り、もしくは審判上に重大な過失を犯した場合、ライセンスの剥奪、停止もしくは相応の処罰を受ける。
- (9) 審判員は、コミッションまたは審判部長の求めに応じて会合し、審判技術の向上、審判ルール並びにルールに規定されていない審判上の諸問題の解釈、およびそれらの処置などを調査、研究しなければならない。
- (10) 審判員は試合中、または試合後に自己の関与した審判の結果で不明な事態が発生した場合、コミッションの許可を得てから新聞、雑誌、放送関係者の質問に答え、意見を発表することができる。

第23条 メインレフェリー

- (1) メインレフェリーは、ルールに基づき試合を管理、指揮、命令する全権を持つ。本ルールに規定されていない事項についても試合に関する限り、メインレフェリーの判断を優先する。
- (2) メインレフェリーは、試合場に上がる場合、コミッションが認可した服装で、メガネ、指輪、バックルその他一切の金属類を身に帯びてはならない。ただしコンタクトレンズの使用は差し支えない。なお、プロモーターの求めに応じて、カメラやマイクを装備する場合は、装備品を競技者と接触させてはならない。
- (3) メインレフェリーは、試合中ルールが厳格に守られるように監視し、必要となる注意や指示をなし、試合が円滑、真剣かつ最高に行われるよう努めなければならない。
- (4) メインレフェリーは、試合場等が正しく整備され、すべての試合役員が正しく配置され、競技者の服装、競技用具等に違反がないことを確認する。
- (5) メインレフェリーは、試合開始時に競技者を試合場の中央に招き、試合がパンクラスルールで行われること、および特に注意すべき反則事項を簡潔明瞭に説明したのち、タイムキーパーに試合開始の合図をする。

第24条 サブレフェリーおよびジャッジ

- (1) サブレフェリーおよびジャッジは、ルールに基づいて試合が行われるよう、メインレフェリーを補佐し、メインレフェリーと共同して試合を管理、指揮しなければならない。
- (2) サブレフェリーおよびジャッジは、メインレフェリーを補佐するためのホイッスルを試合時に携帯しなければならない。
- (3) サブレフェリーは、試合前に、競技者の服装、競技用具等に違反がないことを確認する。
- (4) サブレフェリーは、リング下での審判にあたっては、観客の邪魔にならないよう配慮しなければならない。
- (5) サブレフェリーは、メインレフェリーを補佐するため、必要に応じて試合場に上がることができる。

第25条 審判員は試合中、次の命令語および指示を用いる。

- (1) メインレフェリーが用いる命令語および指示
 - ①『ファイト』 試合の開始、または続行を告げる場合。
 - ②『ストップ』 試合の終了、または一時中断を告げる場合。
 - ③『アクション』 試合の攻防の積極性を促す場合。
 - ④『ブレイク』

次の i ～ v の場合で試合の攻防を解き、スタートポジションに戻す場合。

- i) 『アクション』を2回コールしたにもかかわらず膠着した場合。
- ii) 競技用具が試合に支障を来す状態の場合。
- iii) メインレフェリーが、故意、偶然にかかわらずこれから反則が行われる危険性があると判断した場合。
- iv) 競技者が試合場外に落ちた場合。または落ちる危険性が高いとメインレフェリーが判断した場合。
- v) 反則行為やアクシデント等により、試合の攻防を解く必要が生じた場合。

⑤『ストップ・ドント・ムーブ』

次の i) ii) の場合で、試合を一時中断し、同じ体勢から試合を再開させる場合。

- i) 試合中、競技者が試合場外に落ちそうになった場合や、ロープやコーナーポストが試合の進行の妨げになると審判員が判断し、両競技者の位置を移動する場合。
- ii) 競技用具を整えたり、競技者の状態を確認する必要があると判断した場合。

⑥メインレフェリーは、勝敗が決定したのち勝者の片手を上げて表示する。引き分けの場合、両方の競技者の手を上げる。

- (2) サブレフェリーおよびジャッジは、手の動作によるシグナルを用いて、メインレフェリーに前項のコールを促すことができる。
- (3) サブレフェリーおよびジャッジは、必要に応じて、ホイッスルを吹いて試合を一時停止または終了させることができる。
- (4) サブレフェリーおよびジャッジは、メインレフェリーの死角で軽微な反則が行われた場合、試合を停止することなく、リング下から競技者に直接口頭で注意を与えることができる。

(審判員の権限)

第26条 審判員は、次の権限を持つ。

- (1) 競技者が試合続行不可能な状態、あるいはそれ以上続けると危険な状態であると判断した場合、試合を終了させることができる。
- (2) 試合中に競技者が負傷した場合、オフィシャルドクターに負傷の程度を聞き、その意見を参考に試合続行か否かを決定することができる。
- (3) アクシデントにより競技者が試合場外へ落ちた場合、競技者の状態に応じて、即座に試合を続行させるか、時間を止めて落下した競技者の回復を待つか、もしくは試合を終了させるかを決定することができる。
- (4) 競技者が故意に試合場外へエスケープした場合、その競技者を試合放棄とみなすことができる。
- (5) 目に余る反則を犯した競技者を自己の裁量で反則負けとすることができる。
- (6) 偶然に起きた軽度の反則行為、および軽度の負傷等に対しては、自己の裁量により試合を中断せず続行させることができる。
- (7) 本ルールに規定のない事態が発生した場合、ルール全体の趣旨・精神および他の規定と整合的な裁定を下すことができる。

(反則に対する処置)

第27条 メインレフェリーは、反則に対して次のように処置する。

- (1) メインレフェリーは、競技者が無意識で犯した反則行為に対し、その内容により①口頭による注意②注意③警告④反則負けの処置をとることができる。その場合、反則を犯した競技者と

その処置を適切な合図や身振りで明瞭に示さなければならない。

(2) メインレフェリーは、所持している 2 種類のカードにより反則の裁定を明示する。

①カードの色は反則への処置を示し、黄色(イエローカード)は注意、赤(レッドカード)は警告となる。

②各ラウンド中、イエローカードを提示された競技者は 1 点減点される。

③各ラウンド中、レッドカードを提示された競技者は 2 点減点される。

④反則によってはカードを提示せず、反則負けになる場合もある。

(3) 反則を犯した競技者の形勢が優勢または互角であったとメインレフェリーが判断した場合、「ブレイク」または「ストップ」をコールし反則への処置を取り、スタートポジションから試合再開となる。反則を犯した競技者の形勢が劣勢であったとメインレフェリーが判断した場合、「ストップ・ドント・ムーブ」をコールし反則への処置を取りそのままの体勢から試合を再開するかメインレフェリーの判断により再開時のポジションを決めることができる。

第 8 章 オフィシャルドクター

第 28 条 オフィシャルドクターは、スポーツ医学に精通した医師であって、競技者並びに試合役員の健康を管理する。オフィシャルドクター以外の医師の判断は公式のものとは認められない。

(1) オフィシャルドクターは、試合中試合場サイドに着席し、審判員の要請があれば負傷した競技者の診断結果を報告し、必要に応じて応急処置を取る。

(2) オフィシャルドクターは、競技者の負傷状態を診て自己の判断で審判員に試合の中断もしくは中止を要請することができる。

(3) オフィシャルドクターは、試合前の競技者の診断結果において試合をするに堪えない理由を認めた場合、即座にパンクラスにその旨を報告し、一定期間の出場停止を勧告することができる。

第 9 章 タイムキーパー

第 29 条 タイムキーパーは、試合場サイドの最前列に着席し、正確なストップウォッチによりすべての計時を厳正に行わなければならない。

(1) タイムキーパーは、試合の開始と終了、およびラウンドの開始と終了をゴングにより知らせる。

(2) タイムキーパーは、試合中審判員の事故その他の理由で試合中断のやむを得ない事態が発生した場合、審判員の指示がなくとも即座に中断のゴングを鳴らすことができる。

(3) ゴングは、直径 25cm 以上のものを試合場の横の本部席に水平に固定させる。

第 10 章 アナウンサー

第30条 アナウンサーは、試合を司会する。アナウンサーによってアナウンスされたものはすべてコミッション公式のものとする。

第31条 アナウンサーは、試合開始に先立って、両方の競技者の氏名、身長、体重、所属、コーナーの色、ランキング、タイトル、パンクラス戦績、試合役員の氏名を告知し、試合終了後は裁定、決め技、および試合時間を発表する。

第32条 アナウンサーは、コミッションおよびプロモーターから許されたもの以外のアナウンスをしてはならない。

第11章 キング・オブ・パンクラス・コミッション

第33条 キング・オブ・パンクラス・コミッション

- (1) コミッションは、タイトルマッチ運営等、パンクラス公式試合に参加する競技者の序列に関わる一切の事柄に対し、最終決定権を有する。
- (2) コミッションは、パンクラスの毎興行終了後10日以内に招集し、各項の決定を行う。
- (3) コミッショナーは実行委員の決定を承認し、タイトルの認定をする。

第34条 パンクラスにおける序列

コミッションは、各階級にランキングと王座を設ける。また全階級、全競技者の最高峰に立つ王座として、無差別級キング・オブ・パンクラスリストを設ける。尚、一人の競技者が同時に無差別級をのぞく複数の階級のランカーおよび王者になることはできない。

パンクラス公式試合に参加する競技者は、次の(1)～(3)の序列に分類される。

- (1) キング・オブ・パンクラスリスト（王者）：パンクラスの最高峰に立つ競技者。
 - ①キング・オブ・パンクラスリストは、パンクラス公式試合において最も高い実力を発揮し、試合内容、人格、ともに品格ありと認められた者がその資格を有する。
 - ②キング・オブ・パンクラスリストは、前項に規定するキング・オブ・パンクラスリストとしての適格性を保持するように努めなければならない。
 - ③キング・オブ・パンクラスリストがパンクラス公式試合以外の試合に出場し、王者として不適格な試合を行った場合、コミッションの指示により、4ヶ月以内の防衛戦(指名試合)を行うか、王座を返上しなければならない。
- (2) ランカー：各階級において、キング・オブ・パンクラスリストに挑戦する資格を有する競技者。コミッションは、1位から10位までのランキングを設定する。ランキング1位の競技者は1年以内にタイトルマッチを行う優先権を有する。
- (3) ノーランカー
本条(1)(2)以外の競技者。

第35条 ランキングの変動

コミッションは、競技者のパンクラス公式試合における勝敗、試合数、勝率、実績、および他

団体、他競技における実績等を考慮した上で、毎興行終了後 10 日以内にランキングを更新する。
また、前回出場から 365 日経った日までパンクラス公式試合出場がないランカーは、ランキングから自動的に外れるものとする。

第 36 条 タイトルマッチ

- (1) 挑戦者は、コミッションがランカーの中から選定する。ただし、無差別級はこの限りではない。
- (2) タイトルマッチは、パンクラスオフィシャルルールに則って行われる。
- (3) 引き分けの場合は、キング・オブ・パンクラシストの防衛となる。
- (4) タイトルマッチは、5 分 3 ラウンドで行われる。
- (5) 王者および暫定王者は王者になってから 1 年以内に防衛戦を行なう義務がある。
- (6) 王座統一戦、新王者決定戦、正王者決定戦、挑戦者決定戦、暫定王者決定戦はマスト判定により必ず勝者を決定する。
- (5) 計量に合格できなかった競技者は王座に就けない。
 - ① タイトルマッチで、王者が正規の体重を維持できなかった場合王座は空位となる。
 - ② 王者が正規の体重以外で正規の体重の挑戦者に負けた場合（不戦敗を除く）王座は移動する。
 - ③ 王者が正規の体重以外で正規の体重の挑戦者に勝つか引き分けた場合、王座は空位となる。
 - ④ 挑戦者が正規の体重を維持できなかった場合は、勝敗に関わらず王座は移動しない。

第 37 条 種々の事情により、公式に発表されたタイトルマッチが行えない場合

- (1) キング・オブ・パンクラシストに責のある理由の場合
本人の意思、日常生活や練習中の怪我等、キング・オブ・パンクラシストに責のある理由によりタイトルマッチが行えない場合、キング・オブ・パンクラシストは速やかにその座を返上しなければならない。新しい王座は、コミッションの指名する選手が対戦する、新キング・オブ・パンクラシスト決定戦によって決せられる。
- (2) キング・オブ・パンクラシストに責のない理由の場合
公傷と認められる怪我、交通トラブル等、キング・オブ・パンクラシストに責のない理由によってタイトルマッチが行えない場合、キング・オブ・パンクラシストは当初の試合予定日から 1 年以内に防衛戦を行わなければならない。防衛戦が行えない場合は、速やかにその座を返上しなければならない。
- (3) その他上記に含まれない事例が生じた場合、速やかにコミッションを招集し、その決定に従って対処する。

第 12 章 提 訴

第 38 条 提 訴

- (1) 競技者およびセコンドは、次に掲げる事由についてコミッションに提訴することができる。
 - ① ルールの適用の誤り
 - ② 試合判定に対する異議（ただし、試合における 3 名の審判員が同一の結果を下した判定については提訴を受理しない。）
 - ③ 試合結果に影響を及ぼす重大な事実誤認

- (2) 提訴は、すべて文書をもって試合後2週間以内に行うこととし、口頭によるものは無効とする。その提訴に対してコミッションは、文書によって裁定の結果を通告する。
- (3) 試合における裁定等に対する異議の申し立ては、当該レフェリーやジャッジおよび試合役員ではなく、コミッション宛としなければならない。

附 則

本ルールの改正は、コミッション、パンクラス事業本部、審判部および選手会の承認を経たのちに公布されなければならない。

「キャッチレスリング」ルール

1. 試合時間は5分1ラウンドか5分2ラウンドとする。
2. 競技者は、オープンフィンガーグローブを着用しない。
3. 競技者は、パンクラスが認可するマウスピース、ニーパッド、シューズを任意で着用できる。
また相手競技者の認可があり、審判員が使用しても試合に支障無しとされた競技用具の着用は認められる。
4. ファールカップを必ず着用する（プラスチック製のカップでも使用可）。
5. すべての打撃攻撃は禁止とする。
6. セCONDは1名までとする。
7. 上記以外はパンクラスオフィシャルルールに準ずる。

「パンクラスゲート」ルール

1. 試合時間は3分2ラウンドとする。
2. 判定なし。時間切れは引き分けとする。
3. 顔面への肘打ちは禁止とする。
4. 一方または両者がグラウンドポジションでの顔面および頭部への打撃攻撃は、グローブ装着部分以外では禁止とする。（パンチ、掌打、鉄槌等のみ可能）
5. セCONDは1名までとする。
6. 上記以外はパンクラスオフィシャルルールに準ずる。

「ネオブラッド予選(プロ昇格)トーナメント」ルール

1. 試合時間は3分2ラウンドとする。
2. 判定はマストシステムとする。
3. 顔面への肘打ちは禁止とする。
4. 勝利選手が何らかの理由で次戦に出場できない場合は相手選手の不戦勝とする。
5. 一方または両者がグラウンドポジションでの顔面および頭部への打撃攻撃は、グローブ装着部分以外では禁止とする。（パンチ、掌打、鉄槌等のみ可能）。
6. セCONDは1名までとする。
7. 上記以外はパンクラスオフィシャルルールに準ずる。

以上